

スマホ等利用の低年齢化に対応した小・中が連携した情報モラルモデルカリキュラムの開発

キーワード 情報モラル教育，小・中連携，小・中連続，カリキュラム開発，アクティブラーニング型の授業，年間指導計画

学校名 札幌市立平岡中学校（平岡中学校区情報モラル研究会）

所在地 〒004-0872
北海道札幌市清田区平岡2条5丁目4-10

ホームページ
アドレス [http:// www16.sapporo-c.ed.jp/hiraoka-j/](http://www16.sapporo-c.ed.jp/hiraoka-j/)

1. 研究の背景

近年，スマホ利用の低年齢化が進み，小学生たちの中には，不適切な情報公開や利用をする児童が増加している。

複数の小学校から生徒たちが入学する中学校では，これまでも，4 月には人間関係のトラブルが起きていたが，ネット利用の低年齢化が進み，このようなトラブルがネットを利用して起こる事例が本校でも増えてきた。

図 1 に示すように（赤：中学生からスマホを利用している生徒。青：小学生からスマホを利用している生徒。創造教育研究所、2016 年 5 月実施中・高 4 校の結果から）2014

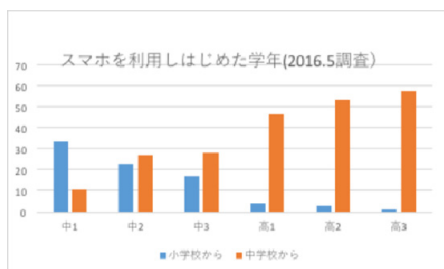


図 1 スマホ利用開始学年の変化

年に入学した生徒から急増し 2016 年には小学校からスマホを利用しはじめていた人数が逆転している。

そのため，これまでのように中学校入学後に情報モラル教育を始めた場合，解決が困難な問題やトラブルが起こるようになってきた。そこで，札幌市立平岡中学校(以下平岡中)が 2006 年から実践・研究し効果をあげてきた，教育課程に位置づけた組織的な情報モラル教育や年間指導計画に基づき全校体制で取り組む情報モラルの授業を

校区内の小学校と連携し，連続したカリキュラムで実施できないか検討した。

その結果，2015 年から 3 年計画で，校区内の全ての小学校と連携し，連続した情報モラル教育を実施することを目標に，2015 年度は，校区内の札幌市立三里塚小学校(以下三里塚小)と連携することとした。

内容は，6 年生を対象に，創造教育研究者尾崎が出前授業を担当し，情報モラルの授業に関する試行を行い，担任が情報モラルの授業を行うための要件について整理した。

2. 研究の目的

本研究の目的は次の 2 つである。

1. スマートフォン（以下スマホ）利用の低年齢化に対応した小・中が連携し連続性のある情報モラル教育のモデルカリキュラムとアクティブラーニング型の情報モラルの授業を開発すること。

2. 小・中学校が連携しネット上の問題やトラブルに組織的に対応するために必要な指導体制や指導方法について実践を通してモデルを開発し研修会等を実施し広く公開すること。

この目的を達成するために、本年度は、平岡中と三里塚小が共同で情報モラル教育に関する授業実践、両校合同の校内研修会、教頭、担当者等による打合せ会議や、TV 会議、メーリングリストを活用した情報共有などを通して検証することとした。

さらに、2017 年度から、平岡中と校区内の全小学校 3 校が連携し、連続したカリキュラムによる情報モラル教育を実施するための準備も行うこととした。

そのため、平岡中が、2006 年度から 10 年間蓄積してきた、組織的な情報モラル教育の推進に関するノウハウを生かすことができるよう、情報モラルの授業については、これまで平岡中が利用してきた東京書籍の情報モラルとコンピュータのアニメ教材を中心に授業を構成した。

これらの授業は、単なる知識の習得が目的ではなく、思考・判断場面や心情面から迫る内容を設定し、アクティブラーニング型の問題解決型の授業を行うとともに、時代の変化に対応するために改訂するアニメ教材に対応した、新たな授業の開発を通し、持続可能な情報モラル教育のモデルカリキュラムの作成もめざすこととした。

一方、これまでも小・中の連携の重要性は、学習指導要領等で指摘されてきたが、その具体的な実践が見えにくい現状を踏まえ、この実践・研究では、情報モラル教育というキーワードを切り口に、小・中が連携し組織的で持続可能な指導体制や指導方法について明確にすることを意識することとした。

これらの実践で得られたノウハウを他の学校でも実現可能なモデルとなるような指導資料を作成し、ネット利用の低年齢化への対応が困難な状況の学校が活用できるようモデル化し、本実践・研究から出てきた課題を中心に公開し、小・中が連携した実践を進めるために参考となるような実践を推進する。

本研究の 2 つの目的を達成するために、平岡中と三里塚小が実践・研究を推進し、小・中が連携した情報モラル教育の実現をめざす。

3. 研究の経過

2015 年度には、三里塚小で 3 回の情報モラルの出前授業を行った。平岡中では、1 年 5 回、2 年 4 回、3 年 3 回の情報モラルの授業を行い、小・中が連続した年間指導計画立案の準備を進めた。

2016 年度は、次のような取り組みを行い、小・中が連携した情報モラル教育の実践を進めた。

表 1 2016 年度の研究の経過

実施時期	小・中連携の取り組み	小学校の取り組み	中学校の取り組み
4 月	年間指導計画の構想		1 年授業（担任：ネットでコミュニケーション。評価：WS）
5 月	担当者打合せ（平岡中 5 /10、長谷川研究室と TV 会議。評価：ir）	年間の情報モラルの授業の実施時期の検討。	1 年授業（担任：個人情報への公開は危険） 2 年授業（担任：LINE などの SNS 依存。評価：WS）
6 月			生徒の実態を把握するための調査

7 月		児童の実態を把握するための調査 出前授業 (7/19。講師：創造教育研究所代表尾崎廉。評価：WS, ph)	1 年授業 (担任：ゲーム中毒と依存。評価：WS) 2 年授業 (担任：出会い系サイトに注意。評価：WS) 3 年授業 (担任：様々なネットトラブルと対応。評価：WS)
8 月	児童・生徒実態把握するための調査の集計・分析 愛知県総合教育センター研修会視察 (8/25 三谷) 小・中合同校内研修会 (8/29 講師長谷川元洋教授、WS, ph、eq)		
9 月			3 年授業 (担任：ネットで公開した情報は回収不能。評価：WS)
10 月	平岡中学校区青少年健全育成推進会 (10 月 22 日)	担任が情報モラルの授業を行うための授業時期の検討	
11 月、12 月			1 年授業 (担任：ネットいじめ。評価：WS) 2 年授業 (担任：悪質商法、ネット詐欺。評価：WS)
1 月、2 月	小・中連携のための参考資料の内容検討。(評価：ir) 小・中連携に向けた打合せ会 (2/21, 平岡中, 参加：平岡中, 三里塚小, 長谷川教授, 金城学院大学生, 北星学園大教授金子, 南山大成田, 創造教育研究所尾崎。評価：ir)	情報モラルの授業に関する打合せ (1/16) 6 年授業 (2/12, 担任：文字情報は誤解を招きやすい。評価：WS、ph)	1 年出前授業 (長谷川教授金城学院大学学生、LINE トラブルへの対応。評価：WS、ph、or) 次年度の情報モラル授業計画について (2/27 校内研修会) 2 年授業 (担任：Twitter などによる情報発信とその影響。評価：WS) 3 年授業 (担任：賢い消費者になろう。評価：WS)
3 月	清田小情報モラル教育推進に関する打合せ (3/10, 清田小。評価：ir)	6 年授業 (3/2, 担任：友だちの友だちからのダイレクトメッセージ。評価：WS, ph)	

評価手段 (ワークシート=WS、写真=ph、アンケート=eq、観察記録=or、会議記録=ir)

8月の小・中合同校内研修会を通し教師たちが連携に向けた意見交換を行った。また、10月22日に実施した、平岡中学校学区健全育成推進会において、参加した校区内の小学校の教職員、関係機関、地域の人たちに、次年度以降の小・中連携の情報モラル教育の必要性について説明した。

2月の打合会において、次年度、校区内の3校が連携し連続した情報モラルの授業を行うことを確認し、当日参加できなかった清田小とは3月に打合せを行った。この結果、2017年度から、校区内の小・中学校が連携し連続した情報モラル教育が実現することとなった。

授業については、小学校においては、2、3回目の情報モラルの授業を新しいアニメ教材と指導資料を使い担任が行うことが可能なことを確認した。中学校においては、旧アニメ教材を利用した授業を行い、アニメの内容と学習すべき内容が変化していることを確認し、次年度に向けた指導資料の改訂を行うこととした。

購入した情報機器（三里塚小デジカメ、平岡中iPad）については、情報モラルの授業等で活用する事ができた。

しかし、小・中連携のための指導資料については、年度内に完成することはできなかったが、2017年5月末を目処に完成をめざすこととした。

4. 代表的な実践

(1) 小・中の情報モラルの授業

1. 三里塚小の情報モラルの授業

小学校の担任が行った2回の情報モラルの授業は、右図のように、授業のポイントと詳細な展開例を示し、この資料を確認することで授業ができるようにしている。

これは、当初の平岡中の情報モラルの授業実践の課題であった、どのように授業を進めると良いか自信がないという教師たちに対して、詳細な指導資料を準備することで解決できたため、小学校の授業では最初から、この資料を作成することとした。

そこで、6年生の担任たちに指導資料を確認してもらい、授業を行った。この授業は、SNSの友だち申請について考える内容だったため、課題解決型の授業としたが、それぞれの担任の持ち味

を生かし、児童が真剣に課題解決に取り組む授業となった。

小・中が同じ流れの指導資料を使い授業を行うことで、児童・生徒たちにとって、一貫性のある連続した授業ができることを確認した。

この授業は、メッセージアプリの友だち申請の仕組みを知り、適切な設定をすることが重要であり、知らない人と友だちになることで思わぬトラブルに巻き込まれる可能性があるため、メッセージアプリを安全に利用するための注意点について理解することができる学習にします。

	学習活動	指導の流れ
導入	1. 学校で仲良くなった友だちとネット で知り合い仲良くなった友だちの 同じところ違うところを整理しワー クシートに記入し発表する。	○学校で仲良くなった友だちとネット で知り合い仲良くなった友だちの 同じところ違うところをワー クシートの裏に整理し発表する。
展開	2. アニメの視聴	○アニメの視聴（47秒で一時停止）
	3. 知らない人からLINEで友だち申請 が来た場合に自分はどう対応 をしようか考えワークシートに記入 し発表する。	○サキのようにLINEに知らない人からの友だち申 請が来た場合、自分はどのような対応をしようか考 え発表するよう促す。
	4. グループになり、付箋や行動の場 面に記入しグループで意見を交流し話し合った結果を グループごとに発表するように指示をする。	○ここまでのサキの行動の問題点、心配な点を付箋 に記入しグループで意見を交流し話し合った結果を グループごとに発表するように指示をする。
	5. アニメの続きを視聴する。	○アニメの視聴（最後まで）

図2 情報モラルの授業の指導資料

また、ワークショップ型の学習については、児童たちが、自分たちの知識を活用し、状況を把握したうえで、問題点の洗い出し、問題解決の方策、問題に巻き込まれないための具体的な対応について検討し結果をまとめ発表することができた。



写真 1 三里塚小学校の情報モラルの授業

2. 平岡中の授業

平岡中では、年間指導計画に基づいた授業の他、2月に長谷川教授と金城学院大学の学生が講師になり、1年生を対象にSNSいじめについてのワークショップ型の授業も行った。

普段は、教室でのグループ学習で問題解決型の授業は行っているのだが、この日は、体育館に1学年の生徒が集合し、校区内の小学校の教師たちも授業を参観している中でのワークショップ型の授業だったが、積極的に学習に取り組むことができた。

この授業を参観した教師たちから、ワークショップ型の授業の展開のしかたがよくわかったという感想もあり、校区内の小・中学校が連携し、連続した実践についてイメージする機会になった。



写真2 ワークショップに取り組む生徒たち

(2) 小・中合同の校内研修会

小・中の教師たちが共通理解のもと、連携し連続した情報モラル教育を推進するためには、情報共有が必要と考え、8月に三里塚小、平岡中合同の校内研修会を、金城学院大学長谷川元洋教授を講師に実施した。



写真3：小・中合同校内研修会

内容は、SNSのトラブルを解決するためのワークショップ型の研修とし、小・中の教師が混合するようグルーピングを行い、問題解決に取り組んだ。

問題解決の途中でそれぞれの児童・生徒の実態や現状の交流も行われ、情報共有を図ることができた。

このように小・中の情報モラルの授業、教師の小・中合同校内研修会などを行うことで、小・中が連携し、連続した情報モラル教育の実践が実現できそうな状況になってきた。

（３）校区内の小・中学校連携のための打合せ会議

授業公開後に、参加者が集まり、次年度の中学校と校区内の全小学校が連携した情報モラル教育を行うための打合せ会議を行い、趣旨説明後、参加者が検討し、実践を進めることとなった。

本実践・研究に１年間取り組んで来た成果が現れ、本年度の目標を達成することができた。



写真３ 校区内の小学校との打合せ

５．研究の成果

研究目的１．に関しては、小学校の担任によるワークショップ型の授業、中学校の１学年の長谷川教授によるアクティブラーニング型の授業実践により、次年度に向けての授業の開発ができた。４月には、児童・生徒の実態調査を行い、小・中連続した年間指導計画の作成のための準備を行うことができた。

研究目的２．については、小・中合同の校内研修会や打合せ会を実施し、次年度から、校区内の全ての小学校と組織的な取り組みを推進するための準備ができた。

６．今後の課題・展望

研究の目的はおおむね達成できたが、組織的な指導体制や指導方法に関するモデルの開発し広く公開することについては、資料の完成が遅れた。しかし、本実践・研究を行ったことで、校区内の全小学校と連携し、連続した情報モラル教育を推進するための基盤が確立し、４月からは５年生からの継続した実践を行うための目処がついた。

このことにより、さらに小・中が連携した情報モラル教育の推進が可能になった。また、使用する新しいアニメ教材についても、利用することが可能になったので一貫性のある情報モラルの授業ができるようになった。

本年度は３年計画の２年目として本研究がパナソニック教育財団の実践教育助成に採択されたため、スムーズに目的に沿った実践に取り組むことができた。

７．おわりに

本実践・研究に関し、これまで１０年間本校の情報モラル教育に関する共同研究をしてきた金城学院大学の長谷川元洋教授、本校旧職員で創造教育研究所の尾崎廉代表のご指導とご協力に感謝申し上げます。

８．参考文献

- ・学習指導要領（文部科学省）
- ・教育の情報化に関する手引き続き倍旧のご厚情を賜りたく、切にお願い申し上げます。
- ・平岡中 開校３０周年記念研究紀要 ～９年間の校内研究と情報モラル教育のまとめ～